

2023/5/29 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 15章 4-6節 (新約聖書138頁)

あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。

ともに喜ぶ

人間と羊の関係は文明の起こりと共に、家畜として飼われたことに始まります。特に遊牧民たちが水と草を求めて移動し放牧していたのが羊です。聖書の舞台はまさに彼らの世界です。そこで聖書ではよく人間を羊に、神様を羊飼いにたとえて書かれています。

羊は動物の中では臆病な生き物です。一つの群れになる習性があります。その習性を利用して家畜として放牧されました。でも草原や水場に来ると羊たちは安心して群れからはぐれ、その度に羊飼いは羊の名前を呼び、群れに戻すそうです。

イエスは九十九匹の羊と一匹の羊のたとえを話されました。もし雇われた人間の羊飼いなら、迷子になった一匹の羊よりも残る九十九匹がはぐれ、盗まれてはいけないので探しに行かないでしょう。でもたとえ話の羊飼いは九十九匹を残しておいても一匹を探しました。

わたしたちも神様から離れよく迷子になります。でも神様は迷い出たあなたは悪くない、見失った私が悪かったと必死に探し続ける姿が浮かびます。だから見失った一匹の羊が見つかった喜びは、残された九十九匹の羊だと思っている人の喜びでもあると伝えています。

(しばらく黙想しましょう)

わたしたちを導き守られる主よ、あなたは「私は良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」と言われました。あなたから離れ迷う私たちを照らし、あなたの一つの群れに導いてください。季節の流れは早く、梅雨の季節を感じますが、どうか生徒、教職員の心身を守り、良き学び、備えをもって体育祭を迎えることができますように。特に準備する体育局、係の英和生、教職員をお守りください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン